

## 第2学年2組 体育科学習指導案

指導者 是住 直人

### 1 単元名 スラッシュボールゲーム（ボールゲーム）

低学年のボールゲームでは、的当てゲームやドッジボールなどの教材で学習を行うことが多い。これらの教材は、投げて的に当てるのが楽しい遊びであり、力強く投げる動作を身につけることができるという共通点がある。しかし、これらの教材は的や人をねらって投げる楽しみが中心であるため、パスをつなぐための相手が捕球しやすいようなボールの質について考えたり、ボールを動いてボールを止めたりするといった場面はあまりなかった。そのため中学年以降のゲームの学習において、パスをする、パスを受けることに難しさを感じている子どもも少なくなかった。

本学級の子どもたちに目を向けてみても、的当てゲームや宝運び鬼ごっこなどの学習を通して、力強いボールの投げ方や相手をかかわす動きなどの技能を高めてきた。このような学習をしてきた子どもたちに、仲間とパスを繋ぐための投げ方やパスを受けるための動きなどの、仲間と共にゲームをより楽しむための動きを味わってほしいと願う。

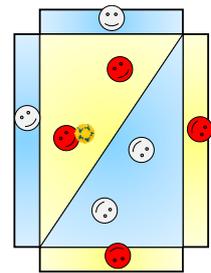
そこで本実践では、相手からボールを捕られず仲間にパスを渡すことで得点となる「スラッシュボールゲーム」を行う。このゲームでは、仲間にボールが渡すことができるか、できないのかを楽しむ遊びである。そのため、子どもたちは、仲間にパスを通すために、捕球しやすいパスの質を考えたり、飛んでくるボールのコースに動いて捕球したりしてゲームに親しむことができる。

### 2 単元について

- (1)本単元は、「スラッシュボールゲーム」(ボール運動領域ゴール型に発展)に親しむ中で、守備者にボールを取られないように、仲間が取りやすいボールを投げたり、仲間が投げたボールを止めたり捕ったりするボール操作を身につけるとともに、守備者に邪魔されない場所へ移動してボールを受けようとする、ボールを持たないときの動きを身につけることをねらいとしている。

この「スラッシュボールゲーム」は、ゴール型に発展するゲームであり、4人対4人で行う。攻撃側は、パスを1回つなぐと1点となる。守備側は、相手のパスを止めたり捕ったりしたら、得点となり攻守が入れ替わることとなる。今回コートを手形にしているため、攻撃側のボール保持者は、自分以外の二辺にいる仲間のどちらかにパスをするのかを選びながらプレイすることとなる。得点となるのは、自分のコート内でパスを捕った場合であるため、ボールを投げる人は、相手の守備者にボールを捕られることなく、仲間が捕りやすいボールの投げ方やボールの質を試行錯誤すると考える。また、捕球する側は、相手がいなくてころへ移動する動きの大切さに気付いていくと考える。

- (2) 子どもたちはこれまで、的当てゲームや宝運び鬼ごっこなどのゲームに親しんできている。的当てゲームでの学習では、力強くボールを投げるための体の使い方を追求してきた。また、宝運び鬼ごっこでは、守備者に捕まらないような動きや簡単な作戦を考えて、仲間と連携することでゲームをより楽しめることを学習してきた。低学年のまとめの段階であるこの時期に、仲間が捕球しやすいパスのことやボールを持っていないときの動きを学習し、そのよさや大切さに気付くこととは、他のボール運動の課題解決においても活用することができる力であり、中学年以降のボール運動の学習につながり、豊かなスポーツライフの礎となっていくと考える。



【コート図】

#### 【ルール】

- ・1チームは6人。
- ・4人たい4人でゲームをする。のこりの2人はかんどく。  
(おしよ1、2番、2回目は3、4番、3回目は5、6番がかんとくになる。)
- ・ゲームの時間は2分。2分たったらかんどくとうたい。
- ・2人は三角形のうちがわ、のこりの2人は三角形の外。
- ・なかまからのパスを自分のエリアでとることができたら1点。  
※パスを止めてからとつてもよい。
- ・ボールをもってたくさん動いてはいけない。
- ・まもっていても、あいてのボールを止めたり、とつたりしたら1点。

- (3) 単元に関する子どもたちの実態は次の通りである。(調査人数36人)
- ① 多くの子どもが5m程度離れた的を狙って投げることはできる。さらに長い距離でも狙ったところに投げることができる子どもも数名いる。
  - ② 5mほど離れた位置から、胸に飛んでくるボールは全員が捕球することができる。右や左に動きながら捕ることができる子どもが25人程度いる。
- (4) 指導にあたっての留意点は次の通りである。
- ① 単元の導入時には、十分にゲームに取り組む時間を確保し、やってみる中でルールを調整したいところなどを聞き取り、柔軟に変更していく。その際、ゲームに参加する人数などはゲームのバランスに大きな影響を与えるため、慎重に検討する。また、このゲームの魅力や難しさなどを出し合い、どのような力が身につくようなかを共有することができるようにする。
  - ② ゲームをする中で、子どもたちから表出された「仲間が捕りやすいボールの投げ方や質」「もっと点数を取るための作戦(動き)」などの思いを見取り、単元を構成していくようにする。また、単元終末での自分の最終的な姿をイメージしながら学ぶことができるようにするために、なりたい姿をロードマップに記入させ、毎時間学びを更新していくことができるようにしておく。
  - ③ 本時では、体育日記の「仲間が二人とも相手に守られていてパスをすることが難しい」という悩みを取り上げ、その場面を静止画で提示し、「二人とも守られているときは、どんな作戦がよいのだろう」という課題を立ち上げ、「自分だったらどうするか」という視点でボールを持っている時とボールを持たない時の双方の動きを出し合うようにする。試しの場では、ゲームをしながら自分なりの良い動きを追求していくようにする。動きを共有していく際には、そのよさを語らせることで、見方・考え方を働かせながら納得解を見つけることができるようにする。

### 3 単元の目標

- (1) 仲間が捕球しやすいボールを投げたり、空いているところに動いたりすることができる。
- (2) 仲間が捕りやすいボールの投げ方や質、ボールを持たないときの動きを見付け、考えたことを友達に伝えることができる。
- (3) 運動に積極的に取り組み、ルールを守って運動したり、仲間の考えや取組を認めたりしてゲームを楽しもうとしている。

### 4 指導計画(7時間取り扱い)

学習活動	主体的・対話的で深い学びを生み出すための教師の支援	時間
1 ゲームに親しみ、楽しめるようにルールを調整する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ゲームに親しむ中で表出した面白さや難しさを出し合い、身に付きそうな力を共有することで、学習の見通しを持つことができるようにする。</li> <li>○ ゲームのバランスが崩れないように留意しながら、子ども達が納得できるように、ルールの調整を行う。</li> </ul>	2
2 作戦を考えながら、ボールを持っているときとボールを持たないときの動きを明らかにしていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 作戦がうまくいかないという事実から学習課題を設定し、必要感をもって技能を身に付けられるようにする。</li> <li>○ 活動の様子や体育日記の記述、動画などから困り事を見取り、学習課題を設定する。</li> <li>○ 動きや作戦を共有する際には、その良さを語らせることで、体育の見方・考え方が働くようにする。</li> </ul>	5 本時 3 — 5

## 5 本時の学習

### (1) 目標

仲間にパスを通すための作戦を考え、試す活動を通して、守備者に捕られないようなパスの方法やボールを持たないときの動きに気づき、自分なりによい動きを見つけ、生かすことができる。

### (2) 展開

時間	学習活動	子どもの思い・姿
5	1 準備運動をする。	○ 今日も仲間にたくさんパスして、得点したいな。 ○ どんな作戦で攻撃しようかな。
10	2 本時の課題を把握し、試してみたい動きを考える。	○ 仲間が二人とも守られているときは、なかなか得点することができなかった。 ○ 僕たちもそんな時あったよ。そんな時は投げるふりをして、相手をだまして投げたよ。 ○ だますだけだったら、二人とも守られているから捕られるんじゃない？ ○ ボールを持っていない時に、パスをもらえるように早く動いたら、相手に守備されなかったよ。 ○ 近くまで行くともらいやすそうじゃないかな？ ○ どんな作戦にすると、もっと得点が入るんだろう。やってみたいな。
15	3 試しの場で試す。 (1) グループで試す (2分×3試合)  (2) 全体で共有する	○ ボールを持ったら、だまし作戦をつかってみたいな。うまくいくのかな。 ○ ボールを持っていないときには、もらえるように近くに行ってみよう。 ○ 近くに行くだけだったら、相手に気付かれてしまうな。遠くにも動いてみようかな。 ○ だまし作戦で守っている人がちょっとでも動いてくれたら、パスが出せました。 ○ ボールを持っていない時にボールを持っている人の近くに動いたら、パスをもらえました。けど、ずっと近くにいたら、相手に気付かれました。 ○ 仲間がパスを出すときにパッと動いたらいいんじゃないかな？仲間に合わせて動くといいと思う。 ○ 相手に守られないように、リズム良くどんどんパスを出したら、たくさん得点できたよ。
10	4 試合をする。 (2分×3試合)	○ 少しでも空いているところがあればパスしてみようかな。 ○ どんどんパスするってどんな感じなのかな、やってみようかな。
5	5 学習の振り返りをする。	○ ボールを持っている人の工夫がたくさん増えました。そして、ボールを持っていない時にも得点につながる動きがあることがわかりました。



子どもたちはこれまで、仲間が取りやすいパスの投げ方やパスの質について試行錯誤してきました。しかし、ボールを持っているときにとりあえず投げているような場面も多くあります。そこで本時では、ボールを持っている人だけではなく、ボールを持たない人の動きにも視点を広げながら、自分なりの動きのよさを見つけ、作戦に活かせるようにしていきます。

主体的・対話的で深い学びを生み出す教師の支援（発問・指示、教材・教具、評価）

- 体育日記の「仲間が二人とも相手に守られていて、パスをすることが難しい」という困り事を取り上げ、全体で共有する。その際、実際の写真を提示し、状況を理解しやすくする。写真は、困っている子どもの視界からのものを提示することで、当事者の立場に立って自分なりの解決方法をもつことができるようにする。また、必要に応じて写真の様子を俯瞰的に示した図を見せ、コートを開局的に見ることできるようにしながら課題を立ち上げていく。

仲間が二人とも守られているときは、どんなさくせんがよいのだろう。

- 課題となる状況が理解できたら、自分だったらどうするのかを問う。子どもたちの発言を、誰の動きなのかを明確にしながら、ボールを持っている人の立場とボールを持たない人の立場に分けて整理しながら板書するようにする。ボールを持たないときの動きが表出しにくいことが考えられるため、必要に応じて発問し、試しの場でボールを持たない時の動きも試行錯誤できるようにする。

【教具】

- 学びの足跡
- 学習シート
- iPad
- 写真
- 写真のコート図

- 試しの場では、実際のゲームを行いながら試すことができるような場を設定する。その際、各コートの子どもの動きを見取り、ボールを持っている人が相手をかかわそうとしている投げ方やボールを持たない人が相手の守りをかわそうと動いている姿を見取り、価値づけるようにする。また、コート外にいる子どもたちには、自分が試してみた動きや友達の動きのよさなど問いながら、子どもたちの考えを見取ることができるようにする。
- 全体で共有する際は、ボールを持っている人の動きとボールを持っていないときの動きの双方の立場からの考えを取り上げ、解決方法を出し合うことで、仲間が互いに連携することのよさを感じることができるようにする。また、双方の立場の意見を取り上げることで、子ども一人一人が、ボールを持っているときやボールを持たないときに、自分はどうの動きができそうなのかを具体的なゲームへの関わり方をイメージすることができるようにする。
- 共有している際に、仲間が二人とも守られないようにするための作戦が出された場合、その作戦を認めながら、その作戦の良さを語らせるようにする。
- 言葉による説明だけでは動きがわかりにくい場合は、俯瞰的に見たコート図で動きを示し、モデル化したり、試技やスロー再生などで紹介させたりして、子どもたちが動きと発言を関連付けながら動きを理解できるようにする。
- ゲーム中は、それぞれのコートで動きを見取り、守備者に捕られないようなパスをしている姿や、パスをもらえる場所移動して、パスを受けようとする動きを評価する。
- 本時の学習で、学んだことや考えの変化などを振り返り、ロイロノートに入力させることで、自分やチームの変容や学習の深まりを自覚できるようにする。

【評価】

守備者に捕られないようなパスを出したり、パスをもらうための動きをしたりしている。（観察）